

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、本校生徒の実態を踏まえて、魅力ある定時制通信制教育の推進に努めてきた。さまざまな問題を抱えた生徒たちが、卒業後社会人として自立し、逞しく生きる力を身につけるため、今年度も引き続き、生徒の実態に即した組織的で効果的な指導体制の充実を図るとともに、個々に対応したきめ細かな支援を行った。今年度は6つの重点課題の改善に取り組んだ。

学習活動（1）では重点課題「わかる授業の工夫、実践」として、基礎的な知識や理解が不十分で学習習慣が確立していない生徒が多くいる現状を踏まえて、4課程合同で各教科の授業内容の検討を行い、その結果を日頃の授業に活かすよう実践を重ねた。互見授業と生徒アンケートを行った上で、教科別研修会を実施した。互見授業の参加者も増え、生徒のニーズに応じた学習意欲を喚起する教材や指導方法について協議し、理解を深め、生徒に還元するように努めた。

学習活動（2）では重点課題「学力向上や基礎学力の定着を図るための支援活動」として、漢字検定の学習に重点を置いて取り組み、希望する級に応じた内容を選べるようにし、プリントを準備したり、テキストを図書館で準備して貸し出しを行った。また、プリントにシールを貼ったり、参加回数が多い生徒に認定証を出すなど、生徒が興味・関心を持てるよう工夫した。

学校生活（1）では重点課題「生徒指導体制の確立」として、4課程合同で登下校指導を実施したり、地域の方と一緒に「さわやか運動」を行った。登下校指導では、朝の昼間単位制や専攻科の登校時から夜の夜間単位制の生徒の下校時まで、4つの時間を設定し関係課程の教員が協力して指導に当たり、挨拶、身だしなみ、交通安全、不審者への注意等の声かけを行った。9月には登下校指導強化週間を設け実施した。秋のさわやか運動では地域の方の協力を得て行った。

学校生活（2）では重点課題「学習環境の整備」として、6月と10月の登校時に生徒会と有志で校舎内外の清掃を行った。生徒ギャラリーに清掃場所や参加者名を記入したりすることで関心を高めたり、各課程で清掃評価を行い美化意識の向上を図った。

進路支援では重点課題「進路実現をめざす支援活動」を継続し、各課程の実態に合わせて進路ガイダンス、進路学習会、座談会、講演会、高大連携特別授業を実施した。ガイダンスや進路学習会では、進路希望調査や適性検査を活用して個別指導を丁寧に行った。また、就職教室や夏期休業中の自主自学教室を行い、進路指導の充実を図った。その結果、就職志望では自分の適性に合う企業を慎重に選ぶ生徒が増え、進学志望では一般選抜試験まで粘り強く取り組む生徒が増えた。

特別活動では重点課題「学校行事の活性化を推進し、生徒の帰属意識を育成する」として、学園祭参加生徒の満足度を高める取り組みをした。4課程と県民カレッジ合同の実行委員会を実施し、学校全体で取り組んだ。前日のプレステージを工夫したり、各企画において生徒の要望を取り入れ、一人ひとりが主体的に取り組めるように努めた。

7 次年度に向けての課題と方策

今年度は生徒の実態を踏まえた「個に応じた学習活動」「社会的自立に向けた能力を身につける」ための支援に重点を置き、4課程が連携して具体的な方策に取り組んだが、次年度も、本校生徒の実態に即した組織的で効果的な指導体制の充実を図りたい。

また、本年度は本校独自に開発を進めている「キャリア教育」が完成を迎えたが、しばらくはその効果の検証に努めたい。

重点項目	学習活動 【その1】
重点課題	わかる授業等の工夫・実践
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習歴の中でつまづいた経験があり、基礎的な知識・理解が不十分な生徒が多い一方、比較的学力の高い生徒もおり、学力差が非常に大きい。 ・学習習慣が身につけていないことから、学習意欲がもてず、授業等に取り組む姿勢も受け身となりがちで理解に時間がかかる生徒が多く見られる。 ・学校全体として4課程が足並みをそろえ、学習習慣を身につけ、学習意欲を引き出すことが課題である。そのため、日々の授業等が理解しやすく魅力的なものになるよう工夫することで、生徒の「授業等の内容がわかった」とする割合をさらに高めたい。
達成目標	生徒の「授業等の内容がわかった」とする割合 85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の取り組みを検証すると共に、4課程が一体となり各教科の授業等を工夫したり、内容を再検討したりする。 ・4課程合同の互見授業を実施し、授業等における工夫について検討を行い、その結果が日頃の授業等に活かされるよう授業実践を重ねる。 ・教師の授業力を高めるため、互見授業や教科別研修会を開催する。教材の共有化や視聴覚教材リストの整備等を工夫する。 ・生徒を対象とした授業アンケートを実施することで、授業等の工夫・方法の効果に対し検証を行う。「授業等の内容が（よく）わからなかった」と答えた生徒について、わからない理由やつまづきの詳細について深く調査する。 ・4課程合同の教科別研修会を実施し、今年度の取り組みを総括する。 ・教科や課程の枠を越えて指導方法等を学ぶ全体研修会の実施を検討する。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「授業等の内容がよくわかった」60%（昨年度65%）、「どちらかといえば、わかった」35%（同28%）、計95%（同93%）。目標は達成できた。
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が日頃から、「わかる授業の工夫に関する配慮事項」を踏まえ、目標の明確化や確認プリントの工夫等を行い、日々の実践に努めた。 ・4課程合同の互見授業期間を10月に1回設定し、互見授業を実施した。本年度は、すべての授業等を互見対象とする形に改めた。参観者から「互見授業カード」を通して伝えられた意見・感想や他教職員の授業参観を通じて、各々の指導方法等を再点検し、授業等の改善・充実を図った。なお、互見授業期間中の延べ参観回数は90回で、一昨年度116回、昨年度155回から減少した。要因は互見授業の進め方が変わったことと、期間が昨年度の2週間から1週間になったことである。 ・互見授業期間中に、生徒対象の「授業アンケート」を実施し、授業の理解度や、理解度が低い場合にはその理由を把握し、自らの授業等の工夫と方法の効果に対する検証の機会とした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・4課程合同の教科別研修会を11月に実施し、生徒の実態・ニーズに応じた学習意欲を喚起する教材・指導方法等について共通理解を図った。その際、各教科毎の「わかる授業等の工夫に関する配慮事項」の検討・改善も行った。 	
評 価	B	<p>数値目標は達成し、生徒の「よくわかった」と「どちらかといえば、わかった」の割合の合計も昨年度と比較して増加した。しかし、「よくわかった」の割合は昨年度と比較して減少した。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・共学講座を受講していたが、生徒の「授業等の内容がよくわかった」が60%というのは、実態よりも高い。 ・生徒に予習を勧め、予習でわからなかった部分を質問できる体制を作ると、生徒の理解度が高まる。 ・互見授業は大変だが、マンネリ化を防ぐための手立てを考えながら続けてほしい。生徒との接し方、発問・板書の仕方、ノートのとらせ方等については、教科の枠を超えても参考になる。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業アンケート」の結果は、特定の科目の、特定の期間のものであり、すべての科目の理解度や年間を通した理解度は、必ずしもその数値と合致しているとは言えない。全校一斉の授業アンケートを年に数回行う等、より客観的な授業評価の数値が得られるような方法を検討する必要がある。また、授業改善により資するよう、「授業アンケート」の質問事項についても検討する。 ・互見授業の期間や参観回数について、以下の点を検討する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ①期間をここ3年間同時期に設定していたが、授業が同じ内容に偏りがちになるので別の時期での設定を検討する。 ②期間内のすべての授業等を公開した今年度のやり方と、授業者が指定した授業のみを公開した昨年度までのやり方の、いずれがよいのかを検討する。 ・互見授業を中心とした研修会だけでは、わかる授業等のための工夫・改善に限界があると思われる。外部講師による授業改善のための研修会、特にアクティブラーニングの導入に係る研修会等の実施を検討する必要がある。 ・異なる課程で共通に使用できる教材の開発や共有化が必要である。 	

重点項目	学習活動【その2】	
重点課題	学力向上や基礎学力の定着を図るための支援活動	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習歴の中でつまづきがあり、基礎的な知識・理解が不十分な生徒が多い。 ・過去2年間実施した基礎学力支援講座の参加人数は、25年度延べ57名、27年度延べ69名と増加傾向にあるが、27年度は目標の70名に達していない。 ・参加を促したい生徒は多くいるが、さまざまな理由から参加しない場合が多い。 	
達成目標	学力をつけるための講座の参加人数を増やす。延べ70名以上。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・講座名を「基礎学力支援講座」から、「寺子屋ゆうほう」と改め、親しみやすく興味関心をもってもらえるようにする。 ・毎週木曜日6限に実施することで、学習の習慣化を図る。 ・おもな学習内容は、漢字検定のテキストとし、個々に応じた級から始められたり、級を設けたり合格証を発行することで生徒に励みを持たせるよう工夫する。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の参加人数は延べ113名で、目標の70名を上回った。 	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を漢字検定の学習とし自分の希望する級から学べるようにした。それによって5級～準1級を希望する様々な学習段階の生徒が参加した。 ・検定テキスト本を図書館で準備し貸し出したり、級に対応した自作のプリントを学校で準備したりして、生徒の負担なく参加できるようにした。 ・講座開始時間にのぼり旗を設置するなど、生徒が興味関心をもてるよう工夫した。 ・プリントにシールを貼ったり、参加回数の多い生徒に認定書を出したりして、生徒が成果を感じられるようにした。 	
評価	A	講座の参加人数を増加の目標を達成した。
学校関係者の 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・後期で希望者が減ったのは残念。目標を達成したものに対してもう少しレベルアップするような働きかけをして欲しい。 ・当たり前のことだか、社会に出た時に字が読めなかったり計算ができないと困る等話していただきたい。 ・生徒がわくわくできるような授業内容を考えてほしい。 ・部活動等で参加したくても参加できない生徒にはプリントを渡して家で学習できるように配慮してもらいたい。 	
次年度へ向けて の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の講座参加人数は102名、後期の講座参加人数は11名と後期になると極端に少なくなる。参加者にアンケートを実施し、後期の参加者を増やす工夫をしていきたい。また、漢字検定担当の国語科との連携を図り、漢字検定の合格者を増やすなど実績を作ることで、「寺子屋ゆうほう」をより多くの生徒に広めていきたい。 	

重点項目	学校生活 【その1】	
重点課題	生徒指導体制の確立	
現 状	<p>本校は、4課程を有することから、一体感を持った生徒指導が難しい。登下校指導については、近年の取り組みにより連携が取れるようになってきているが、生徒の登下校時間が課程によってまちまちであり、普段はそれぞれの課程が独自に指導している。四課程が連携して指導できる体制が不十分なところもある。</p> <p>定時制（昼間・夜間）では制服が定められているが、通信制・専攻科は私服登校であるため、一般来校者との見分けがつきにくく、声かけしにくい状況にある。課程を越えて声かけや指導ができるように、連携を図り、指導体制の一層の充実を図ることが重要となっている。</p>	
達成目標	① 4課程合同の登下校指導を実施。	② 「さわやか運動」を近隣の町内会や保育園等と合同で行う。
	前期2回、後期2回以上	年1回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・春、秋に実施の「さわやか運動」期間中および登下校指導強化週間を設ける。 ・朝の登校時は昼間・通信・専攻科教員が、夕方の昼間の下校と夜間の登校時には、昼間 夜間教員が、夜間の下校時には夜間教員が協力して指導にあたる。 ・挨拶、身だしなみ、交通安全、不審者への注意等の声かけを行い、登下校時の生徒指導全般について課程を越えて指導にあたることによって、指導体制の充実に繋げる。 ・PTAや地域の方々にも参加を呼びかけ、活動の充実を図ることで、保護者や地域の方々にも生徒の状況を把握してもらう。また、生徒が近隣の目を意識することで、学校周辺での問題行動の抑制に繋げる。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・「さわやか運動」を含め、前期2回、後期1回の合同登下校指導を行った。 ・後期の「さわやか運動」を地域の方と合同で行った。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・春と秋のそれぞれ約一週間の「さわやか運動」には、各課程の生徒・教員・保護者が協力し活発に取り組んだ。 ・朝の登校時から、夜の夜間生徒下校時まで、4つの時間を設定し、関係課程の教員が協力して指導にあたった。 ・挨拶、身だしなみ、交通安全、不審者への注意等の声かけを行った。 ・秋の「さわやか運動」では、自治振興会長を通して地域の方にも参加を呼びかけてもらった。初日のみで数名の参加であったが、地域の方と合同で行うことが出来た。今後も継続していく予定である。 ・昨年度の学校関係者の意見を受け、雄峰高校の生徒へだけでなく、通行する一般の方にも声かけを行った。 ・9月に登下校指導強化週間を設け、声かけを行った。 	
評 価	B	・地域の方と合同の「さわやか運動」の第一歩を踏み出すことが出来た。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく、さわやかに、元気に挨拶する若者が求められており、さわやか運動は必要である。 ・PTA役員会では、さわやか運動に協力したいとの話があった。保護者との連携を重視したい。保護者の参加意識を高めるため、生徒から保護者に参加を依頼してはどうか。また、同窓会にも呼びかけをしてはどうか。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「さわやか運動」に地域の方にも参加してもらうことができた。まだほんの第一歩であり、取り組み方は、これからの課題である。 ・「さわやか運動」への保護者の参加が、例年より少ないように感じられた。連携をとり、生徒を見守っていきたい。 	

重点項目	学校生活 【その2】	
重点課題	学習環境の整備	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 校舎は4課程で共有して使用しているため、使用頻度が高い。 行事や授業形態の都合上、使用後に清掃時間がとれず清掃が徹底できない場合がある。 環境美化やゴミの分別について、生徒の意識が十分に行き届いていない。 	
達成目標	①清掃評価Aの月間平均	②朝・夕方の清掃参加生徒延べ
	80%以上	100人以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各課程の美化活動を増やすことで、学校全体の環境整備を維持する。 各課程の実情に応じて目標設定して環境整備に取り組み、清掃評価を通して環境整備に関する意識を高める。 評価は課程の実情に応じて清掃監督または、厚生委員が行う。 A：大変きれいになった B：きれいになった C：きれいではない 美化月間に週2回、各課程の希望者や厚生委員が登校時（朝、または夕方）に清掃活動を行う。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> 清掃評価A 月間平均 91.2% （6月88.2%、10月94.2%） 美化月間中の登校時清掃は245人（6月延べ129人、10月延べ116人）と目標を達成できた。 	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 6月、10月を美化月間とし、月・木、さわやか運動週間に登校時に厚生委員・生徒会の他、希望者を募り、校舎内外の清掃を行った。 各課程清掃評価を実施し、美化意識の向上を図った。 全校生徒へ美化月間の案内を配布、掲示版を利用して呼びかけを行った。 生徒ギャラリーに登校時清掃の場所、参加名を記入することで美化活動参加への興味関心を高めるよう努めた。 	
評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 数字的には達成できた。登校時清掃は、各課程の参加人数に偏りがあったが美化月間を機に自主的に朝清掃をする生徒がおり、美化意識に対する効果はあった。
学校関係者の 意見	<ul style="list-style-type: none"> 実施後も継続して清掃している生徒がいることは素晴らしいことである。アクションプランの効果はあったと思われる。 企業の立場からすると、整理整頓を尊ぶ。当たり前前の方が当たり前前であればいいと思う。 	
次年度へ向けて の課題	<ul style="list-style-type: none"> 行事、校時等、各課程それぞれ事情が違い、同期間に美化月間を設けるのは困難であった。 登校時清掃については、曜日を限定せずに各課程参加しやすい日を設定することがあってもよい。 	

重点項目	進路支援	
重点課題	進路実現をめざす支援活動	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意識が卒業することにだけ向きがちで、卒業後の進路まで考えさせる指導が必要である。 進路を決定する際に進路に関する知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識を向上させる必要がある。 進路意識、学力などに個人差があり、一斉の進路学習には工夫を要するため生徒の実態に応じた個別指導を行う必要がある。 	
達成目標	年度末での進路先決定率90%以上 (就職に関しては志望が明確で就職活動をおこなう生徒を対象とする。 進学に関しては第一志望に限定しない。)	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査、適性検査を通して、生徒の進路希望、適性を把握し、個別指導に役立てる。 各課程の実態に合わせて、進路学習等を実施し、進路指導の充実を図る。 企業訪問、学校説明会参加などを通して、進路開拓を行い、生徒に情報提供を行い、進路実現に努めさせる。 就職や進学をすすめる上で欠かせないコミュニケーション能力の向上を図り、場に応じた言動ができるよう個別指導を行う。 学習活動の支援や他の分掌との連携を図り、進路別の支援体制を確立する。 	
達成度	3/15現在 3課程98.2% (昼間:97.3%、夜間:100%、通信100%)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 新規取り組み <ol style="list-style-type: none"> ①通信制での進路研修(金工大訪問等) ②3課程合同の教職員と生徒の座談会 ③キャリア教育推進事業で朝日印刷(株)顧問池田尚紀氏、県立大学参与中島節治氏による講演 ④高大連携特別授業で富山福祉短期大学看護学科長 炭谷靖子氏による講演 就職教室、書き方教室、センター試験教室、スーツ着こなし教室、労働法に関する講話など、従来の取り組みの充実を図った。 進路指導に関する資料の充実:就職・進学用専門書、調査書等記入方法マニュアル本の収集・常置、面接試験対策用DVD等の常備等 適宜生徒や担任への支援の充実、諸機関との潤滑な連携を図った。 	
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べ、家庭の事情等で進学から就職に進路変更する生徒が多く見られた。就職志望では自分の適性に合う企業を慎重に選ぶ生徒が昨年より増え、進学志望では一般選抜検査まで粘り強く取り組む生徒が昨年より増えた。進路未決定の生徒が増加しているが、個別に支援を継続している。 ○昨年(H28.3.15)では、3課程91.1%(昼間:89.6%、夜間:87.5%、通信96.2%)
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 経済同友会等から外部講師を招聘した進路指導(出前講座など)を実施し、その企業への就職に繋げてほしい。 高校生の年代は自分を変えたいと思っており、親より教員の声かけを待っている。 県外進学者に対して県も施策をして、富山での就職を促している。富山の良さを勧めて富山での就職を定着させ、地域を活性化してほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年次の早期進路学習(進路意識の向上)⇒進路希望調査を踏まえた担任や進路指導部による個別指導を行う。 外部講師による進路別講義などを実施することにより早い時期からの進路意識の向上をはかる 3課程合同による進路研修の実施する 卒業年次の生徒に対し進路目標の明確化と早期準備を促し、具体的な受験対策指導を行う。 生徒への学力支援体制の確立を図る 他分掌との連携及び役割分担 	

重点項目	特別活動	
重点課題	学校行事の活性化を推進し、生徒の帰属意識を育成する。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動を効果的に行うための時間の確保が困難である。 ・生徒は自主性に乏しく集団での活動を苦手とし、学校行事の参加に消極的な生徒が多いため、参加形態に工夫が必要である。 ・課程間の交流の機会が極めて少なく、各課程内の活動が主となってしまう。 	
達成目標	・学園祭への参加生徒の参加満足度 85%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が意欲的に取り組むことができるように、各課程の特色を活かすことを考慮する。また、いろいろな企画を例示することで自主的に活動に取り組むやすいように配慮し、個々の生徒が充実感や達成感を得ることができるように努める。 ・4課程合同の企画によって各課程間の相互理解を深めるとともに、県民カレッジ富山地区センターとの連携により、世代を超えた思い出深い学園祭となることを目指す。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・参加して満足できた 全体：77%（昼85%・夜75%・通82%・専42%） ・積極的に参加できた 全体：74%（昼82%・夜72%・通73%・専45%） ・他の生徒と協力できた 全体：72%（昼80%・夜69%・通60%・専53%） 	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4課程・県民カレッジ合同の実行委員会および4課程合同の生徒実行委員会を実施し、学校全体として取り組んだ。 ・前日にプレステージを開催し、各企画の宣伝や県警察音楽隊によるブラスバンド演奏の鑑賞などを行い、学園祭に対する意識の高揚に努めた。 ・各課程とも従来からの模擬店や展示発表が中心となったが、各企画における生徒の要望をできるだけ取り入れ、一人ひとりが主体的に取り組めるように努めた。 ・外来者に対して、企画名や展示内容がわかりやすく看板を設置したり、案内掲示に工夫を凝らした。 	
評価	C	<ul style="list-style-type: none"> ・平均値は達成目標を下回っているが、専攻科のアンケート結果によるところが大きい。要因としては、専攻科はメイン企画（フレンチレストラン等）に専念するため、学園祭の展示を楽しむ余裕がないことが挙げられる。しかし、専攻科の企画に対する満足度は高い値（80%）を示しているので現状維持とした。
学校関係者の 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会や学園祭は年々バージョンアップしている。学園祭では、工夫を凝らした展示物が見られる。 ・体育大会では生徒は伸び伸びと活動している。 ・学園祭で、夜間単位制の生徒の販売場所を道路側から見える場所にすると、もっと地域の人が集まるのではないか。 ・専攻科のフレンチレストランは、ニュースで紹介されたことにより注目されている。 ・先生方は褒めのスポンサーになって、子どもの良いところを褒めてやってほしい。 	
次年度へ向けて の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・4課程合同の学校行事は限られているが、今年度の成果と課題を踏まえ、達成目標を再検討し、個々の生徒がより充実感や達成感を得ることができる取り組みを実践していきたい。 	